

岡崎市の観光と物産

桜まつり 家康行列

岡崎公園を中心に約800本の桜が咲き誇ります。岡崎の春の風物詩「家康行列」は、徳川家康公を中心に三河武士、姫など700余名が市の中心部を練り歩きます。合戦の再現や鉄砲隊による演武もあり、絢爛豪華な時代絵巻が繰り広げられます。



岡崎城下家康公夏まつり 花火大会

三河花火の粋を集めた全国屈指の花火大会。江戸時代から情緒豊かな鉦船を浮かべた花火まつりとして知られていた、菅生神社の祭礼が元となっています。仕掛け花火、金魚花火、スターマインなど、バラエティに富んだ花火が楽しめます。



八丁味噌

岡崎城から西へ八丁(約870メートル)の距離にある岡崎市八帖町(旧・八丁村)で造られている「八丁味噌」は、大豆麹をつくり、塩と水だけを加えて仕込み、二夏二冬寝かせて熟成させるのが伝統。水分が少なく、大豆のうまみが濃縮され、深い味わいが特徴です。保存食として優れ、戦国時代には三河武士の兵糧としても重宝されました。家康公は、この味噌で育ち、江戸までわざわざ運ばせたほど好みました。



ふれあいドーム岡崎

新鮮な産直野菜や果物、切り花、米などを販売。生産者が自らの名前で独自に価格を設定し、「新鮮・安全・良質」な農産物を出荷しています。円形ドームの中心には軽食・休憩コーナーがあり、ゆつくりお買い物ができます。



綾川町の観光と物産

うどん(さぬきうどん発祥の地)

空海(弘法大師)の甥にあたる智泉大徳。空海から「うどんの祖」を伝授されたと言われ、それをふるさと綾川町滝宮の地で両親にふるまったのが、讃岐うどんの始まりとも言われています。



町内には数多くのうどん店があります。また、道の駅「滝宮」では「うどんアイス」も販売されています。様々な「うどん」をぜひご賞味ください。

滝宮天満宮と滝宮の念仏踊り

天満宮の祭神である菅原道真は讃岐守として讃岐国に赴任。滝宮天満宮がある場所とはかつて讃岐国国司の官舎が存在した場所と言われています。県内でも有名な学問の神様として多くの参拝者を集めています。



毎年8月25日には、国の重要無形民俗文化財に指定されている、「滝宮の念仏踊り」が行われます。大飢饉の際、道真公が七日七夜神に祈り続けました。祈りが通じて三日三晩雨が降り続き、喜んだ村人達が踊りを舞い、官公に感謝を表したのが今に残ると言われています。

柏原溪谷

町名の由来ともなっている「綾川」の上流にあるのが柏原溪谷です。清流と奇岩の織り成す溪谷美が約7.5kmに渡って続いています。溪谷を流れる清流は「水源の森百選」や「さぬきの名水」に選ばれており、夏は森林浴や川遊び、秋はクスギやカエデの織り成す美しい紅葉を楽しむことができます。



親子獅子舞

毎年10月に行われる春日神社と畑田八幡神社の秋祭りで、「中筋組」と「矢坪組」の両組によつて奉納されている獅子舞です。親子の獅子舞は全国的に珍しく、香川県下でも唯一綾川町だけに伝承されています。親獅子が子獅子を優しく、時に厳しく育てる様子や、親子で楽しく遊ぶ様子などが演じられ、親子の愛情が獅子舞の姿で表現された見ごたえのある獅子舞です。



岡崎市と綾川町へのアクセス

車

岡崎IC(東名高速)豊田JCT(伊勢湾岸道)四日市JCT(新名神高速)草津JCT(名神高速)高槻JCT(新名神高速)神戸JCT(山陽道)神戸西IC(神戸淡路鳴門道)鳴門IC(高松道)府中湖スマートIC
所要時間 約5時間

鉄道

岡崎一(JR東海道本線)名古屋一(東海道新幹線・山陽新幹線)ー岡山(JR瀬戸大橋線)ー琴平ー(ことてん)ー綾川駅
所要時間 約4時間30分

綾川町役場 綾上支所

〒761-2292 香川県綾歌郡綾川町山田下2224番地
TEL.087-878-2211

岡崎市役所 六ツ美支所

〒444-0244 愛知県岡崎市下青野町天神64番地
TEL.0564-43-2500

斎田ゆかりの地 交流提携

令和元年6月2日

岡崎市・綾川町



明治以降の悠紀・主基の地

大嘗祭の年	元号	悠紀国	主基国
1871	明治	甲斐(山梨)	安房(千葉)
1915	大正	愛知(三河)	香川(讃岐)
1928	昭和	滋賀(近江)	福岡(筑前)
1990	平成	秋田(羽羽)	大分(豊後)

大嘗祭 悠紀斎田・主基斎田とは

大嘗祭は、天皇即位後初めて新穀を供えて収穫を祝い、今後の豊作を祈願する宮中の儀式で、天皇代に二度だけ行われます。この大嘗祭を行うにあたり使用される新米を作る田を斎田といっています。

斎田は、京都より以东以南を「悠紀」の地、以西以北を「主基」の地と称し、それぞれ箇所ずつ選ばれます。

大正4年(1915年)大正天皇即位の大嘗祭では、悠紀斎田に岡崎市中島町(旧碧海郡六ツ美村大字中島字丸の内)が、主基斎田に香川県綾川町(旧綾歌郡山田村)が選定されました。

斎田の準備から大嘗祭への新穀供納まで

斎田に選定されたことは、たいへんな名誉であるとともに重大な責任が伴うものでもありました。斎田地の整備や奉耕者の人選、栽培品種の選定などの準備から、祓式、御田植式、拔穂式を経て新穀が京都へ供納されるまで、官民が協力し、この大事業をやり遂げました。



悠紀斎田の当時の写真(大正4年)



主基斎田の当時の写真(大正4年)

斎田の保存・伝承と文化財としての価値

大嘗祭がすんだ後も、地元関係者の努力により斎田の保存やお田植え行事が連綿として伝承されてきました。大嘗祭悠紀斎田は、昭和41年に岡崎市無形民俗文化財に指定、大嘗祭主基斎田行事は、平成12年に綾川町有形・無形文化財に指定され、後世に伝えるに足る貴重な民俗資料としてその価値が認められています。また、それぞれの地に資料館が整備され、当時の装束や用具などが展示されています。



六ツ美歴史民俗資料室



主基斎田記念館

斎田保存会及び相互交流

お田植え行事の保存・伝承のため、それぞれの地域で民間主体の斎田保存会が組織されています。平成元年に悠紀斎田保存会が組織され、主基斎田を訪問したことを契機に保存会の相互交流が始まり、悠紀・主基斎田80周年となる平成27年には、両保存会による交流提携が調印されました。平成27年の100周年記念事業の開催にあたっては、両保存会の緊密な連携のもとで準備が進められた結果、それぞれの地で秋篠宮同妃両殿下をお迎えして盛大かつ厳粛に開催され更に絆が深まり、現在も交流が続いています。平成29年に岡崎市へ地域から綾川町との交流提携要望書が提出され、令和元年に「斎田ゆかりの地交流提携」を締結することとなりました。



悠紀斎田100周年事業



悠紀・主基保存会旗



主基斎田100周年事業



悠紀

愛知県岡崎市の紹介

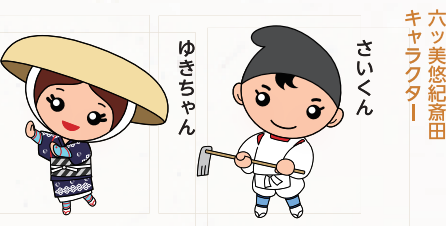
岡崎市は、愛知県の中央部に位置し、古より東西交通の要衝として栄え、江戸幕府を開いた徳川家康公の生誕地として、悠久の歴史と伝統に育まれた美しい都市です。

大正5年に県下で3番目、全国で67番目に市制を施行し、平成15年には中核市に移行しました。平成18年には隣接する額田町と合併し、西三河の中心都市として発展を続けています。

市内には矢作川、乙川の清流が流れ、岡崎の魅力ある景観を醸し出しており、この水辺空間を活用しながら新しいまちづくりを推進しています。また、徳川家及び三河武士に由来する数多くの歴史資産があり、これら歴史文化資産を活かした観光産業都市を目指しています。



徳川家康公騎馬像
神戸隆男／制作 山崎兼慈／撮影
（令和元年 秋 東岡崎駅前に設置）



六ツ美悠紀齋田
キヤラクター

六ツ美悠紀齋田お田植えまつり

毎年6月上旬の日曜日に、岡崎市地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」にある齋田跡地園場にて開催されます。女性は、藍色の着物に菊菱と稲の丸の古代染め、男性は白の上衣に浅葱色の短袴という当時ながらの衣装を身に付け、歌と踊りに合わせて齋田に早苗を植えます。

まつりで使われる苗は、当時栽培された稲と同じ「萬歳（ばんざい）」という品種です。愛知県農業試験場に保管されていた種もみを保存会会員が90年ぶりに栽培することに成功し、復刻米として現在のまつりでも田植えをし、収穫できるようになりました。

主基

香川県綾歌郡綾川町の紹介

綾川町は、香川県のほぼ真ん中に位置し、平成18年3月21日、綾上町と綾南町が合併し誕生しました。

その名前は、町のなかほどを流れる「綾川」から名付けられ、のどかな田園と里山が織り成す讃岐ならではの風景でありながら、そこに新興開発地の活気が加わり発展を続けています。

また讃岐名物うどんは空海によって原形が唐より持ち帰られ、弟子の知泉（滝宮生まれ）によってこの地に根付いたといわれており、綾川町は「うどん発祥の地」として名乗りを上げています。



主基齋田お田植えまつり

毎年6月20日前後の日曜日に、主基齋田跡地に開催されています。

早乙女に扮した香川県立農業経営高等学校の女子生徒が、綾上小学校6年生が歌う「田植歌」にあわせ、大正当時そのままに「お手植え」をおこない、田植え後、香川県立農業経営高等学校の女子生徒と綾川町婦人会が「齋田踊り」を披露しています。

植えつけている苗は、香川県が開発した品種の「おいでまい」を使用しています。

悠紀齋田・主基齋田

それぞれの歩みと交流

年代	悠紀齋田	主基齋田
大正3年 （1914）	齋田定点の儀 悠紀齋田が六ツ美村に、主基齋田が山田村に決定	
大正4年 （1915）	大正天皇即位礼 両齋田で田植式、抜穂式等を経て各々京都へ新穀供納 大嘗祭	綾歌郡立主基農林学校が開設される
大正5年 （1916）	愛知県議会で悠紀齋田跡地の保存を決定、記念碑建立 悠紀齋田記念祭の開催（以降も継続） 「悠紀齋田記録」発行	主基齋田碑除幕式 「香川県主基齋田記録」発行
大正8年 （1919）	悠紀齋田記念館建設	
大正13年 （1924）	悠紀齋田10周年記念碑建立	
昭和4年 （1929）	高松宮人親王殿下が悠紀齋田を訪問	
昭和40年 （1965）	悠紀齋田50周年記念お田植えまつり挙行	
昭和41年 （1966）	大嘗祭悠紀齋田・田植唄・踊り・用具・装束一式が岡崎市無形民俗文化財に指定される	
昭和47年 （1972）	悠紀齋田保存会発定	
昭和60年 （1985）		主基齋田保存会発定
昭和61年 （1986）		主基齋田70周年お田植えまつりが開催される
昭和62年 （1987）	六ツ美民俗資料館で民俗資料を展示	
平成元年 （1989）	悠紀齋田関係者が主基齋田を訪問、相互交流が始まる	
平成7年 （1995）	悠紀齋田80周年記念行事を挙行	主基齋田80周年お田植えまつりが開催される
平成12年 （2000）	悠紀齋田保存会と主基齋田保存会が交流提携協定を締結	
平成17年 （2005）		お田植えまつりが綾川町有形・無形文化財に指定される
平成19年 （2007）	復刻された米「萬歳」によるお田植え	主基齋田90周年記念お田植えまつりが開催される
平成23年 （2011）	100周年記念実行委員会準備委員会スタート 悠紀と主基の100周年に向け交流会開催	
平成25年 （2013）	岡崎市地域交流センター悠紀の里完成 六ツ美歴史民俗資料室で悠紀齋田関係資料を展示	主基齋田100周年記念事業実行委員会設立
平成27年 （2015）	悠紀齋田100周年記念事業を挙行	主基齋田100周年記念事業を挙行
平成28年 （2016）		綾川町主基齋田記念館開館
令和元年 （2019）	6月2日岡崎市と綾川町が「齋田ゆかりの地交流提携」締結 保存会の相互交流開始から30年の節目	